

HA8000Vシリーズ Windows Server 2022を購入する前に

ここでは、HA8000VシリーズでWindows Server 2022を購入される場合の注意事項や、制限事項について記載します。Windows Server 2022を購入される前に、必ずお読みください。

1 プレインストールモデルにおけるOSパーティションサイズの制限について

Windows プレインストールモデルにおいて設定可能なOSパーティションサイズは、最大16TiBまでです。

2 Windows Server 2022におけるSecured core機能について

Windows Server 2022 におけるSecured core 機能サポートに伴い、以下モデルのWindows Server 2022 プレインストールモデルにおいて、セットアップが完了した状態にてSecured core 有効の設定がされています。

- DL360 Gen10 Plus
- DL380 Gen10 Plus
- DL20 Gen10 Plus
- ML30 Gen10 Plus
- DL360 Gen11
- DL380 Gen11
- DL320 Gen11
- DL560 Gen11
- ML350 Gen11
- DL20 Gen11
- ML30 Gen11

システムユーティリティの詳細、およびプレインストール以外のモデルをご購入されたお客様がWindows Server 2022 をインストール後に Secured core 機能を有効にする場合は「UEFI システムユーティリティユーザーガイド」を参照願います。

3 Windows Server 2022のインストールについて

Windows Server 2022をインストールする場合、TPMモジュールオプションを取り付け、有効化する必要があります。TPM モジュールオプションの取り付けなどについては、各システム装置のユーザーガイドをご参照ください。

4 Windows Server 2022 のダウングレード権について

Windows Server 2022からのダウングレード権を使用しての新規インストールは、マイクロソフト社がダウングレード先の旧バージョンをサポートしている期間に限ります。

サポート期間についてはマイクロソフト社サイトをご確認ください。

aka.ms/windowslifecycle

[次ページに続く](#)

5 Windows Server 2022 Hyper-V環境でサポートするゲストOSについて

HA8000VシリーズのWindows Server 2022 Hyper-V環境でサポートするゲストOSについては以下のとおりです。

Windows Server 2008 Standard 32bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 Enterprise 32bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 Datacenter 32bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 Standard 64bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 Enterprise 64bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 Datacenter 64bit 版 (SP2)(*1)
Windows Server 2008 R2 Standard (SP1)(*1)
Windows Server 2008 R2 Enterprise (SP1)(*1)
Windows Server 2008 R2 Datacenter (SP1)(*1)
Windows Server 2012 Standard(*1)
Windows Server 2012 Datacenter(*1)
Windows Server 2012 R2 Standard(*1)
Windows Server 2012 R2 Datacenter(*1)
Windows Server 2016 Standard
Windows Server 2016 Datacenter
Windows Server 2019 Standard
Windows Server 2019 Datacenter
Windows Server 2022 Standard
Windows Server 2022 Datacenter
Windows 7 Ultimate 32bit 版 (SP1)(*1)
Windows 7 Professional 64bit 版 (SP1)(*1)
Windows 7 Enterprise 64bit 版 (SP1)(*1)
Windows 7 Ultimate 64bit 版 (SP1)(*1)
Windows 8.1 Enterprise 32bit 版
Windows 8.1 Pro 32bit 版
Windows 8.1 Enterprise 64bit 版
Windows 8.1 Pro 64bit 版
Windows 10 Enterprise 32bit 版
Windows 10 Pro 32bit 版
Windows 10 Enterprise 64bit 版
Windows 10 Pro 64bit 版
Windows 11 Enterprise 64bit 版
Windows 11 Pro 64bit 版
RedHat Enterprise Linux 8(*2)
RedHat Enterprise Linux 9(*2)

上記以外のゲストOSは未サポートとなります。

Windows ゲストOSのサポート期間は、マイクロソフト社のサポートライフサイクルに従います。
マイクロソフト社のサポートライフサイクルは以下URLを参照してください。

<http://support.microsoft.com/?pr=lifecycle&ln=ja>

RedHat Enterprise Linux ゲストOSの詳細サポートバージョンは以下URLを参照ください。

•RedHat Enterprise Linux 8

http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/linux/product/confirm/files/rhel8_spec.pdf

•RedHat Enterprise Linux 9

http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/linux/product/confirm/files/rhel9_spec.pdf

(*1) サポート終了に伴い、Windows Server 2022からのダウングレード権を使用しての新規インストール対象外となります

(*2) ゲストOSがRedHat Enterprise Linuxの場合仮想ファイバチャネルは未サポートです。

尚、以下モデルにおいて、Hyper-Vは非サポートです。

•DL380a Gen11

次ページに続く

6 Windows Server 2022 Hyper-V環境でのNICチーミングについて

- Hyper-V 環境において、LBFO(Load Balancing and Faileover)機能でチーミングしたNICを仮想スイッチに割り当てることはできません。
- チーミングする場合、SET(Switch Embedded Teaming)を利用可能ですが、構成するアダプタについて以下の制限があります。
 - NIC 同士の速度を同一とすること
 - 同一のNIC 同士(同じベンダ・コントローラ)でチーミングを行うこと。

※ホストOSでは、LBFO機能のチーミングで、LANコントローラのベンダが異ってもチーミングが可能です。

7 バックアップソフトについて

HA8000VリリースのWindows Server 2022環境でのバックアップソフトの状況については以下のとおりです。

- ARCserve Backup :Arcserve Backup 19.0で対応しています。
(Arcserve Backup 19.0は、2022年8月末リリース予定です)
- Arcserve UDP :Arcserve UDP 8.1(UDP 8.0の08-01)で対応済みです。
(Arcserve UDPの修正モジュール(P00002498)の適用が必要です)
<https://support.arcserve.com/s/article/P00002498?language=ja>

8 UPS管理ソフトについて

HA8000VリリースのWindows Server 2022環境でのUPS管理ソフトの状況については以下のとおりです。

- UPS管理ソフト PowerChute Business Editionについては、Ver.10.0以降よりサポートを開始しました。
- UPS管理ソフト PowerChute Network Shutdownについては、Ver.4.3以降よりサポートを開始しました。